

一般社団法人日本調理科学会 2021年度第3回理事会議事録

日 時：2022年1月29日(土)14:00~16:20

場 所：オンライン開催

出席者：綾部園子会長，新井映子筆頭副会長，高村仁知副会長，平尾和子副会長，中村恵子，佐藤靖子，飯田文子，阿久澤さゆり，数野千恵子，名倉秀子，磯部由香，和泉秀彦，坂本薫，菊崎泰枝，升井洋至，五島淑子，岡本洋子，久木野睦子，三成由美，三宅裕子，宮藤章(以上理事21名)，峯木眞知子，藤井恵子(以上監事2名)

欠席者：小西史子，郡田美樹，生田目早苗(以上理事3名)

本日の理事会は，定款第33条理事の過半数の出席(理事24名中21名出席，欠席3名)を満たし成立。

【配信資料】

資料1：一般社団法人日本調理科学会 2021年度第2回理事会議事録(案)

資料2：一般社団法人日本調理科学会 2021年度第3回理事会報告 (編集委員会)

資料3： 同 (情報管理委員会)

資料4： 同 (創立50周年記念出版委員会)

資料5： 同 (次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会)

資料6： 同 (災害時メニュー開発に関する研究委員会)

資料7： 同 (選挙管理委員会：支部からの代議員及び理事候補者の選出結果)

資料8： 同 (選挙管理委員会：2022-2023年度本部役員候補者被選挙人名簿)

資料9： 同 (2021年度若手研究者発表奨励賞)

資料10：「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会

資料11-13：2022年度事業計画(案)・予算(案)

資料14：2022年度代議員総会等

資料15：2022年度代議員総会等(講演会)

資料16：名誉会員推薦

資料17：2021年度大会決算及び余剰金

資料18：2022年度大会

回収資料：2021年9月1日~2022年1月20日入会申込者

1. 議長，議事録作成人，署名人選出

前例により，議長は綾部会長，議事録作成人は岡本庶務担当理事，議事録署名人は綾部会長，新井筆頭副会長，峯木監事，藤井監事とする。

2. 前回議事録確認

2021年度第2回理事会議事録(案)(資料1)を確認し，了承された。なお，(4)2)について「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会」に修正する。

3. 議事

【報告事項】

(1) 業務執行理事からの業務執行状況に関する報告の件

綾部会長より，前回理事会以降の会長の職務を執行してきたとの報告があり，新井筆頭副会長は庶務・編集担当として，高村副会長は情報管理・会計担当として，平尾副会長は企画・広報と家庭料理

研究委員会の担当として、会長を補佐し職務を執行してきたとの報告があった。

(2) 常置委員会からの報告の件

1) 編集委員会

新井筆頭副会長より、資料2に基づき、①投稿状況、②研究倫理関係、③「日本調理科学会誌」論文投稿規程の一部変更、④「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究関連の投稿論文における倫理的配慮に関する確認書」についての報告があった。投稿数は前年度の約60%であったが、却下については前年度より少なくなっており審査が順調に進んでいる。現時点では官能評価の研究倫理審査については、編集委員会で準備したチェックリストにて対応しているが、2025年度からは、官能評価を含む人を対象とする研究について研究倫理審査の承認を必要とするようにする。2025年度以降、研究倫理審査委員会の承認が得られていない論文については、共同研究者の大学で実施していただきたいが、それができない事例について今の時点では具体的には考えていないが、検討したい。④についてこのたび新たに加えた。

2) 情報管理委員会

高村副会長（綾部会長が代読）より、資料3に基づきホームページの更新やメール・ニュース配信等の報告があった。

(3) 特別委員会からの報告の件

1) 刊行委員会

綾部会長より、クッカーサイエンス刊行は継続することになっており、現在、2冊の原稿について編集作業が進んでいる。10巻は長尾慶子氏の執筆した図書が出版される予定である。11巻は市川朝子氏が執筆中である。

2) 創立50周年記念出版委員会

綾部会長より、資料4に基づき報告があった。2022年1月7日発行「週刊読書人」に「全集 伝え継ぐ日本の家庭料理 全16巻完結！」として取り上げられたと報告があった。この記事を、日本調理科学会誌55巻1号を会員等に郵送するときに同封するので、広報活動に活用していただきたい。

(4) 研究委員会からの報告の件

1) 次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会

平尾副会長より、資料5に基づき、7件の報告があった。2022年度には、2014-2022年度家庭料理研究に関するまとめをしたい。そのためにCD制作費等の予算25万円を計上した。具体的には都道府県別総まとめ報告書（4頁構成）を提出していただきたいので、2月末までにフォーマット等を全国配信する予定である。2022年度大会では家庭料理研究委員会の対面及びeポスターを予定している。「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究関連の投稿論文における倫理的配慮に関する確認書」については、論文投稿時に編集委員会で対応していただく。

2) 災害時メニュー開発に関する研究委員会

綾部会長より、資料6に基づき報告があった。コロナ禍においても実施可能なマニュアルを作成したい。

(5) 選挙委員会からの報告の件

1) 支部からの代議員及び理事候補者の選出結果

綾部会長より資料7-1及び7-2に基づき報告があった。名簿の理事は、現時点では「理事候補者」であるという確認があった。

2) 2022-2023年度本部役員候補者被選挙人名簿

綾部会長より資料8に基づき報告があった。1名の被選挙人の理事の任期について質問があったが、

事務局が確認したところ、この資料どおりであった。

(6) 2021年度若手研究者発表奨励賞の件

新井筆頭副会長より資料9に基づき報告があった。Google formsにより投票を行い、新井筆頭副会長と阿久澤理事が実務を行い、選考委員会で決定した。高得点順に受賞者を決定したが、2位と3位の得票数の差が少なかったため、受賞者を3名とした。

【審議事項】

(1) 新入会員承認の件

綾部会長より、回収資料に基づき、2021年9月1日～2022年1月20日入会申込者について、説明があり、確認を行って承認された。

(2) 「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会の件

綾部会長（委員長）より資料10が提示され、審議を行った。内容については、綾部会長を中心に説明がなされ、調査ではリーダーの名倉理事、実験に関してはリーダーの升井理事から説明がなされた。調査チームの研究倫理審査については、綾部会長が所属大学に申請して承認を得ることにしているが、さらに、各大学で必要ならば申請して承認を得ていただきたい。実験チームの研究倫理審査については、官能評価などを含む場合が多いと考えられるので、各大学の状況にあわせて申請し承認を得ていただきたい、とのことであった。以上の審議の後、本件はすべて承認された。

(3) 2022年度事業計画(案)・予算(案)

綾部会長により資料11及び資料12に基づき、2022年度事業計画(案)が提案され審議を行った。内容については、綾部会長を中心に説明がなされ、編集委員会関連については新井筆頭副会長、情報管理委員会関連については高村副会長から説明がなされた。また、高村副会長から資料13に基づき予算(案)の説明がなされた。2022年度予算案では、前年度と比較すると、情報管理費は増加、大会費は減、旅費交通費も減である。事業計画(案)・予算(案)、いずれも承認された。

(4) 2022年度代議員総会等の件

1) 2022年度第1回理事会の開催

綾部会長より、資料14に基づきオンラインによる第1回理事会の開催について提案された。

2) 代議員総会の開催

綾部会長より、資料14に基づき代議員総会の開催について提案された。投票についてはGoogle formsを利用の予定であるが、Zoomミーティングの投票機能を利用することも検討中である。

3) 講演会

綾部会長より、資料14に基づき、Zoomウェビナーによる講演会について概要の説明がなされ、オンライン開催であるので、できるだけ多くの方に参加していただきたい旨、発言があった。平尾副会長より資料15に基づき、2講演の主な内容等について説明がなされた。1名は企業の商品開発室長であり、集団給食で使用する機器の紹介を含めた内容の講演をしていただく。もう1名については2021年度の学会賞受賞者であり、特別研究の内容と関連づけた講演を行う。

4) 代議員総会当日のスケジュール

綾部会長より、代議員総会当日のスケジュールについて提案された。

2022年度代議員総会等に係る1)～4)の計4件の審議事項は、いずれも承認された。

(5) 名誉会員推薦の件

綾部会長より資料16に基づき、名誉会員推薦の提案がなされ、審議後承認された。なお、提案者について、Zoom投票機能で投票を実施した。

(6) 2021年度大会決算及び余剰金の件

2021年度大会実行委員長飯田理事より、資料17に基づき、説明がなされた。続いて、大会実行副委員長数野理事より、資料17の協賛金（会場校）の説明がなされ、大学のルール等により20万円は削除となった。審議・確認後、承認された。

(7) 2022年度大会の件

2022年度大会実行委員長坂本理事より、資料18にそって、提案がなされた。本内容は日本調理科学会誌4月号(2号)に、6ページにわたり掲載される。2022年度大会について、オンラインのみの開催を検討したが、近畿地区をぜひ来訪していただきたいということになり、ハイブリッド（ハイフレックス）方式を予定している。コロナ感染者数の状況を確認しつつ、2022年4月末に、オンライン方式にするか、ハイブリッド方式にするか最終判断をする。2022年3月7日に大会ホームページを開設する。綾部会長より、大会参加登録後の「大会参加のためのID」送信について6月末ということであるが、大会開催日程に近い時期がよいのではないかという意見があった。坂本理事は、口頭発表者が事前にシミュレーションを実施することもあるので、6月末としているが、再度、実行委員会で検討したいということであった。岡本理事から当日の大会運営に関する質問があった。坂本理事によると、口頭発表登壇者は会場にて対面で発表するが、対面で他の発表者の発表を聴くことができるということであった。ハイフレックスの場合、登壇者以外の対面聴衆が入室できる会場を準備する。1日目と2日目の対面来場者について、いずれも300名を予定して会場を準備しているということであった。これらの事項について、承認された。

(8) 2023年度大会の件

中国・四国支部長五島理事より県立広島大学を会場として実施する旨、提案があり承認された。

(9) 2022年度学会賞選考委員会の件

綾部会長より、2022年度学会賞選考委員会設置の提案があり、承認された。選考委員長は新井筆頭副会長、委員は小西理事、菊崎理事、佐藤理事、岡本理事で構成されることになった。

【その他】

(1) 各種支部報告(2021年度事業報告・決算、2022年度事業計画・予算)の提出の件

綾部会長より、各支部の2021年度事業報告・決算(いずれも案で可)及び2022年度事業計画案・予算案を3月末までに事務局へ提出するよう各支部長へ依頼があった。

(2) 学会賞候補、奨励賞候補、功労賞候補の推薦の件

綾部会長より、学会賞及び奨励賞候補者の推薦依頼は学会誌54巻6号に掲載済であるが、是非推薦をお願いしたいとの依頼があった。功労賞については、各支部長に候補者の推薦依頼があった。

(3) 次回理事会について

綾部会長より、2022年4月実施の監査終了後、5月上旬までにオンラインで開催するので、出席をお願いしたいとの依頼があった。

議事録署名人	会長	綾部園子	印
	筆頭副会長	新井映子	印
	監事	峯木眞知子	印
	監事	藤井恵子	印